

**製品名: Nogo A ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14784**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	220kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RTN4 RTN4; KIAA0886; NOGO; My043; SP1507; Reticulon-4; Foccen; Neurite outgrowth inhibitor;
別名	Nogo protein; Neuroendocrine-specific protein; NSP; Neuroendocrine-specific protein C homolog; RTN-x; Reticulon-5
遺伝子 ID	57142.0
SwissProt ID	Q9NQC3
免疫原	抗血清はヒト Nogo A 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 450-499

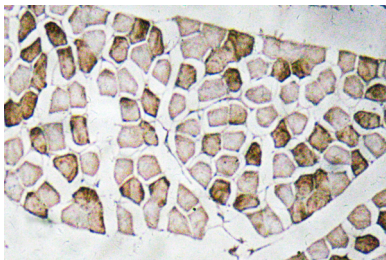
**背景**

この遺伝子は、レティキュロンをコードする遺伝子ファミリーに属します。レティキュロンは小胞体と関連しており、神経内分泌の分泌や神経内分泌細胞の膜輸送に関与しています。この遺伝子産物は強力な神経突起伸展阻害因子であり、高等脊椎動物における中枢神経系の再生阻害にも関与している可能性があります。異なるスプライシングとプロモーター利用の違いから派生し、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、ドメイン：2つの膜貫通ドメイン間の3つの領域（残基 59~172、544~725、およびループ 66 アミノ酸、Nogo-66 ループとして知られています）が、神経突起伸展およびニューロンの拡散に対する阻害効果に関与していると考えられます。この Nogo-66 ループは、RTN4 の受容体への結合も媒介する。機能：in vitro における強力な神経突起成長阻害因子であり、損傷後の軸索再生の抑制と中枢神経系における構造可塑性の両方において役割を果たす。アイソフォーム 2 は、Bcl-xl および Bcl-2 の抗アポトーシス活性を低下させる。これは、結合および隔離後に、これらのタンパク質がミトコンドリアから小胞体へと細胞内局在を変化させたことに起因していると考えられる。アイソフォーム 2 およびアイソフォーム 3 は、BACE1 の活性およびアミロイド前駆体タンパク質の処理を阻害します。オンライン情報：神経再生：禁止によって阻まれる - 2006 年 4 月号 69 号、オンライン情報：シンガポールのヒト変異および多型データベース、配列注意：翻訳は N 末端方向に延長されています。類似性：1 つの小胞体ドメインを含みます。細胞内位置：2 つの推定膜貫通ドメインを介して小胞体の膜に固定されています。サブユニット：RTN4R に結合します。Bcl-xl および Bcl-2 と相互作用します。アイソフォーム 2 は NGBR および RTN3 に結合します。アイソフォーム 2 とアイソフォーム 3 は、BACE1 および BACE2 と相互作用します。RTN4IP1 と相互作用します。組織特異性：アイソフォーム 2 は肝臓を除いて広く発現しています。アイソフォーム 3 は脳、骨格筋、脂肪細胞で発現しています。アイソフォーム 4 は精巣特異的です。

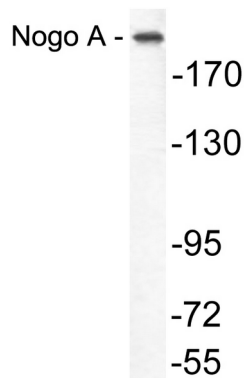
## 研究分野

微小管ダイナミクスの制御; アクチンダイナミクスの制御; SAPK\_JNK; 幹細胞経路; 接着結合

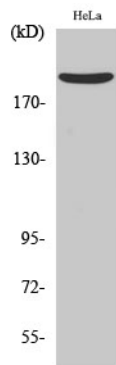
## 画像データ



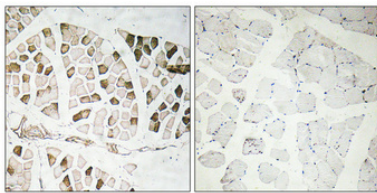
パラフィン包埋ヒト骨格筋組織における Nogo A 抗体の免疫組織化学分析。



Nogo A 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



### Nogo A ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高温高圧トリス EDTA (pH8.0) を用いた。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。